

# 第6回研究全体会

## The Leader in Me 「7つの習慣®」研修（2）

日時 令和5年8月30日（水）13:00-16:00

場所 5年1組教室

講師 フランクリンコヴィーエデュケーションジャパン インストラクター 間宮歌子氏  
LIM 教育研修講師・コンサルタント 日本スクールコーチ協会講師 共育の杜講師・コーチ  
国家資格キャリア・カウンセラー

### 1 前回の振り返り

2人で木こりが木をきっている写真を見て、どの習慣と関係があるか

→ 第7の習慣「刃を研ぐ」

- ・子どもたちの「7つの習慣の木」では、一番上 太陽や、雨のようなもの
- ・「成長の連続体」では、1～6の周りを囲む円

夏休み中に、「刃を研ぐ」経験をしたか？

P 25 4つの側面（肉体、知性、情緒、精神）のどこに当てはまる活動だったか？

→ 自分の活動が、「7つの習慣」とどう関わっているのかを繰り返し問い直すと良い

学校の教員と「7つの習慣の木」

第1、第2、第3の習慣 学級経営

第4、第5、第6の習慣 授業、活動

+ 子ども同士の対話

成長・成果 = 果実



### 2 時間管理のマトリックス 第2領域（「緊急ではないが、重要なもの」=効果性の領域）が大切

○第2領域って？ 効果性って？ （グループでの振り返り）

「効果性」とは、望む結果を長期にわたって、継続的に得続ける状態

第2領域 重要だが、緊急ではない 意識的にやらないといつまでもやらないまま

例)「片付け」自分にとって第2領域になるか、第3領域になるかが重要

子どもが片付けるべきと考えた時、子供にとっては第2領域だが、親が片付けていたら第3領域

「重要」 自分のミッション、役割、価値観、最優勢目標に関連する活動

「緊急」 すぐに対応しなければならないと感じられる活動

片付けが関心のある輪に入っていないだけで、しかし、「片付けなきゃ」と思ったら「緊急」に入る。

→ 「第7の習慣」は第2領域の活動



Q「このように考えるとどうなるのか？（前回いなかったの）」

A 自分で自分の人生をコントロールする力を得るために

○「時間」とは出来事の連続体  
時間そのものはコントロールできない  
しかし、「出来事」はコントロールすることはできる

○出来事をコントロールしなければ、出来事によってコントロールされてしまう

そのために、「時間管理のマトリクス」で、出来事をコントロールできるようにしていく

Q「これができたら、定時退社できる？」

A その通りです！

教員の働き方改革は、文科省も対策を打っているが、教員一人一人のパラダイムを変えていかないとうまくいかない。

締切のある仕事 自分が計画して、この時間にやろうと決めてやれば第2領域、自分でコントロールしている しかし、やらなきゃ、といってやっているのは第1領域、自分がコントロールされていることになってしまう

### 3 本日のテーマ 第4～第6の習慣 「互いの人生をより豊かにする習慣」

第4の習慣 Win-Win を考える 「姿勢」

第5の習慣 まず理解に徹し、そして理解される 「コミュニケーション・スキル」

第6の習慣 シナジーを創り出す 「結果う」

☆全ては、第6の習慣ができるようになるためにある

第6の習慣「シナジーを作り出す」  $1 + 1 = 3$  以上になるように

A 案とB案の「妥協案」をとることが多い 妥協案はAよりBより小さい

AでもBでもない、第3案（シナジー）を見つけ出す

#### 1) 第4の習慣 「Win-Win を考える」

勇気と思いやりのバランス

Win-Lose Lose-Win

Lose-Lose Win-Win

☆長期的に見ると Win-Win 以外は

全て Lose-Lose になってしまう

《ビデオ視聴》

- ・我々は競争の価値観を学んでいる
- ・パイを取り合う子供たち どちらかが全部とるか、半分にするか？



→ 他のものを付け加えてトッピングして2人で満足できた  
☆パラダイムの転換が必要！

## 2) 第5の習慣 「まず理解に徹し、そして理解される」

### 《ビデオ視聴》

- 母親と高校生の息子の会話（1） ・ 探る、評価する、助言する、解釈する
- 母親と高校生の息子の会話（2） ・ 共感的傾聴 先入観を持たず、判断せずに理解するように努める
- ・ 同意でも反対でもない ただ相手の気持ちを理解しようとして聴くこと
  - ・ 相手の気持ちと内容を自分の言葉に置き換えて返す

Op 「自分は初め聞かないで自分の言いたいことを言う母親だった。子どもが不登校になったのをきっかけに、聞くように努力している。すると本音を話してくれるようになった。しかし、なかなかできない。」

Op 「話を聞いてくれるような土台（関係）が、普段からないと話を聞けない」

意図「相手を理解しようとして聴く」＋「スキル（第5の習慣）」 気持ちと内容を反映させる  
スキル「あなたは〇〇について〇〇〇と感じているんですね。」と返す。

人によってパラダイムが異なる。

聴く （きく）

聴す （ゆるす） と読む。（相手が自分と異なるということをゆるす、という意味。）

○信頼口座 人間関係における信頼の度合いを表す比喻表現。

預け入れ（信頼を築く、修復する）

引き出し（信頼を失う、低下させる）

良かれ、と思ってやったことも、預け入れになるとは限らない。普段からコミュニケーションを図る必要があり、教室では「信頼口座」に貯金するような「見える化」をするのもいい。



意図「理解されるように話す」＋「スキル」I メッセージで伝える。 「私は〇〇と思います。」

違いを尊重する（パラダイム） 行動（傾聴、説明） 深い学び

## 4 学年ごとに分かれて、グループでのワークショップ

○自分たちの職務の「第3領域」を炙り出す （目的：第2領域に費やす時間を作り出すため）

- ・ 現状は第1と第3で1日が終わってしまっていることが多い
- ・ どの領域に入るか？ 重要か重要でないかの判断が難しい → そのために「第2の習慣」

を使う

「何のためにやっているのか？」

「どんな力をつけさせたいからやっているのか？」

- ワールドカフェスタイルでやる（小グループで話し合い、書き留めていって、ホストを残して別のグループに行く）
- ブレインストーミングでアイデアを出し続ける（相手の考えを否定しないで）

- 1) 学年ごとブレインストーミング形式であぶり出し
- 2) ホストを残して時計回りに移動 ホストが話し合ったことを伝える
- 3) 出てきた活動が「何のために？」目的を確認し、それがどの領域の活動になるかを話し合う
- 4) ホストがまとめる
- 5) ホストを残して、もう一度移動
- 6) これまでのグループ討議で気付いたことを出し合う

## 5 まとめ

- パラダイムを変えると、これまでと違うアプローチができるようになるのでは？
- 自分たちで第3領域を減らしていく努力をする
- 定時に帰る、自分の時間を持つ  
（これは第2領域の時間になる  
毎日が無理なら、週に何回？  
この時期は無理なら、この時期には？）

せっかくあぶり出したものを、  
校長・副校長に提言してみてください。

